

インティメイト・ミステリーズ



Intimate Mysteries



Double Kokos,
Confessional Confabulations
and the Visualization Tango



Chris Philpott



人の心にふれる演技・深層心理の神秘

<日本語版>

「インティメイト・ミステリーズ」

人の心に触れる演技・深層心理の神秘

Intimate Mysteries

by

Chris Philpott

Exclusive Japanese Edition

**THIS LIMITED EDITION PRINTED BY
FEATHER TOUCH MAGIC**

日本語版 Copyright @ 2018 (有)フェザータッチ MAGIC

インティメイト・ミステリーズ

<目次>

はじめに	-----	6
1章：DOUBLE KOKOS（ダブル・ココ）	-----	11
【オープンドア】	-----	12
【別のハンドリング】	-----	18
【ローラコースター】	-----	24
【パーラー、ステージ向け「ダブル・ココ」】	-----	28
【オール・タイドアップ】	-----	30
【バノン氏のココ】	-----	34
【コスモ・ココ】	-----	43
【ココモ】	-----	47
【ゾンビ】	-----	54
【警官と犯人】	-----	57
【山と宝石】	-----	59
【シンフォニー】	-----	62
【イチゴ畑】	-----	65
【ダークハウス】	-----	69
2章：【コンフェッショナル・コンファビュレーション】	-----	80
【シャーロックの質問】	-----	82
【アイデンティティ&本性】	-----	90
【考え方、感じ方、行動】	-----	95
【動物の旅】	-----	99

第3章：【ビジュアルリゼーション・タンゴ】	-----	102
【ビジュアルリゼーション・タンゴ・テクニック】	-----	103
【コールド・エキボク】	-----	111
F. A. A. A.【何でも、いつでも、どこでも】	-----	121
【ガリバン氏ののタンゴ】	-----	130
【バタフライ・コールド・エキボク】	-----	133
おわりに	-----	138
エッセイ：失敗の楽しさ	-----	139

はじめに

マジックが客に近い存在となればなるほど、その効果が大きくなるのは明らかなことです。例えば、人によっては、スポンジボールはあほらしいトリックだと言いますー本当の魔法使いは一体全体、小さな赤いスポンジのかけらを増やそうなどと思うだろうか？というわけです。そういう声があるにもかかわらず、スポンジボールには客自身も手を触れるうえ、まさに自分の手の中で現れたり消えたりするその根源的魅力は捨てがたく、それゆえクラシックともなっているのです。

私は似たような事がメンタリズムについても言えると思いますーマジシャン達からのメンタリズムに対するお決まりのクレームは、「退屈になってしまう恐れがある」というものです。にもかかわらず、それが客に近いもの（客の心の中にしみこむもの）であればあるほど、信じられないような客の反応を引き出し得るのです。

同様に、「1枚カードを取ってください」式ではないカードトリックは、大きな反応を得ることが多いですー例えばカードが客の手の中で変化するとか、「OUT OF THIS WORLD」（そこでは客自身がマジックをします）は、最もパワフルな現象のうちの2つだと言われます。

私は客とスポットライトを分け合うようなマジックに魅力を感じますし、出来るだけマジックを客の身近なものとするように心がけています。私のゴールの1つは、「客にからむ」エフェクトを作ることですーそれがより強力なマジックに導いてくれるでしょうし、そうしたマジックは観客にとっても面白く記憶に残るマジックです。

「他の人々に、あなたに興味を持たせるように2年間努力するよりも、他の人々への興味を持って2か月間接する方が、より多くの友人を作ることが出来る」

— DALE CARNEGIE

自分がマジックの中心にいる時、その客はより多くの意味ある体験をすることになります。スポンジボールがその手に出現した時に満場の注目と称賛を浴びるようにすれば、客にとってその経験はより記憶に残るものとなり、エフェクトの主題は単なる赤いボールではなく、自分の存在そのものにまでなります。

私は全ての演者のエフェクトがそうあるべきだと言うつもりはありませんが、ショーの中の1つでも2つでもそうしたエフェクトを入れておくことで、観客もより入り込んで来てくれるでしょうし、彼らの経験もより印象深いものとなります。それはともすれば感情がこもらない平板なマジックに、深みと人間性を与えます。さらにそれはマジシャンやメンタリストが陥りやすい落とし穴からも守ってくれますー

つまりマジシャンの方が客より賢いのだと上から目線になることを戒めてくれます。

「私はマジックアクトほどエンターテインメントの価値を侮辱するものは他にないと思います。マジシャンの目的は何なのか？彼らは登場します。我々をだまくらかします。あなたは馬鹿にされたように感じます。ショーが終わります」

— JERRY SEINFELD

この言葉に対抗するには、メンタリストのパワーを客に注いで、客と共にスポットライトを分け合うしかありません。メンタリストは上から目線ではなく、客と共に演技を楽しみ、客にそのマジックを身近なものとしてもらうようにします。

暗い先史時代のマジックにおいては、マジシャンはエンターテイナーではなく、客も座ってショーを楽しんだのではなかったということを知っておくのも無駄ではありません。マジシャン—シャーマン—呪術医 は自分のマジックを、客を使って演じたのです—それは社会にとっても必要な実用的なマジックだったのです。マジックは意味を持っていたのです。

この本のシリーズでは、客にとって深い意味のあるマジックを作りたいと思っています。マジシャンが客の手や心の中だけではなく、客の人生にかかわってくるようエフェクトを探求したいのです。そうしたエフェクトの多くはステージででも演じられますが、基本的にはクローズアップマジックの最大の強みである客との一体性を念頭に置いています。あなたが客に質問し、客がそれに答えます—両者は意味あるコミュニケーションを図る事が出来るのです。多くのマジシャンがそうしたコミュニケーションをとっていない事は残念ですが、逆にいうとそれだけあなたが観客にとって何か特別な事をする余地が十分あるということです。

この本には 3 つの章があります。最初の 2 つの章はマジックにおいて「KOKOLOGY (ココロジー)」を使う事を探求します。「ココロジー」という言葉は、「MIND」や「SPIRIT」を表す日本語の「心」という言葉から来ています—ココロジーは一種の心理的なゲームであり、メンタリストが客を導いていろいろな事を心に思い描いてもらいます (VISUALIZATION: ビジュアリゼーション) が、その結果表面的に見えたことよりももっと意味がある事が後で判るというものです。同じような心理テストの有名な例は「THE CUBE (ザ・キューブ)」ですが、それについては既に多くが語られています。長尾忠彦氏と斎藤勇氏による、この分野での著作シリーズは有名です。

(**訳注:**「ココロジー」も早稲田大学の長尾忠彦氏と立正大学の斎藤勇氏が開発したシリーズです。10数年前には「ココロジー」をテーマにしたテレビ番組シリーズ

もありましたね)

ザ・キューブもココロジーも実際にはよりくだけた文章表現による性格診断であり、物語形式のロールシャッハテストのようなものです。

(**訳注**: ロールシャッハテストはスイスの精神科医 RORCHAHACH が 1921 年に考案した性格テスト。インクの上を見せ、何に見えるか、何を感じるか等質問して、人の反応様式や行動様式からその人の人格・性格を分析し、明らかにしようというものです)

どちらも心理学と占いの間にある細い境界線を行くようなものですが、あなたは好きなように進むことが出来るのです。私の経験では、誰もがこのちょっとしたゲームを楽しんでくれますが、特に女性に受けが良いようです。

「ザ・キューブ」になじみがない人は、インターネットで見ることが出来ますーただその意味するところについて読むだけではなく、実際に試してみることを勧めます。さらに誰かあなたにそれを試してくれる人を探すのが良いです。概略を述べればこんな感じです: ガイドの人物が客を心の中での映像化(ビジュアリゼーション)を通して砂漠の中で立方体を探すのを導くというものです。客は映像化に際して細部を埋めていきますが、ガイドはキーとなる事項や直感、客自身の洞察力を使って、客がした様々な選択の意味を解釈して見せるのです

(**訳注**: 例えば、立方体は自分自身を表しています)。

これは信じられない程的中することがあり、とても親密なコミュニケーションを可能にするのです。そして日々の生活で身に付けている社会的な鎧を切り裂いて、人々をいつもの日々の会話よりももっと深く結びつけるのです。

実際、ザ・キューブは相手との親密性を高める狙いから、PICK UP ARTIST (一流のナンパ師) の世界では大切なツールになっている位です。しかしそれを使うのはそんなに大層な場面でなくても良いのです。私は妻と家の裏庭でワインを飲みながら、妻に「キューブ」を仕掛けた時の事をよく覚えています。私達は結婚生活が長いので、彼女についてまったく新しい情報は特にありませんでしたが、私が知っている彼女の特性のすべてがあらためて信じられない程フレッシュに現れたのです。それで私が彼女を愛している理由が再認識されたという訳です。

「ザ・キューブ」同様、「ココロジー」もユング心理学(**訳注**: スイスの心理学者 JUNG を信奉する心理学派) からヒントを得ており、人の人生のいろいろな局面を探求するための性格判断テストとしてゲームを使います。しかしそれらは(本格的心理テストに比べ)短めであり、範囲もより狭いものです。その分マジックのルーティンに組み込むために扱い易いといえます。

最初のセクションでは、私が「DOUBLE KOKO (ダブル・ココ)」と呼ぶものを探究します。それはストーリー仕立てになっていますが、それには隠された意味があ

り、さらにそれがカードトリックに結び付く第二の意味もある事が判るのです。これ等は何層にも重なった秘密が次第に明らかにされていくエフェクトですが、DAN BROWN 氏の小説のマジック版とでも言えると思います(訳注: DAN BROWN は、映画にもなった「ダ・ヴィンチ・コード」で有名です)。

2 番目の章では「CONFESSIONAL CONFABULATION (コンフェッショナル・コンファビュレーション)」と言われるものを取り扱います。ここではココロジーと
いろいろなコンファビュレーション、すなわちワン・アヘッドと「メンタルエピック」
タイプのエフェクトとのコンビネーションを探究します。

3 番目の章では、私が「VISUALIZATION TANGO (ビジュアリゼーション・タンゴ)」と呼ぶテクニックを探究します。この章では言葉によるカードのフォースをしますが、ダイレクトにやってもリーディングの一部としてやっても良いです。また私がずっと研究してきた新しいテクニックである F.A.A.A. (FORCE ANYTHING ANYTIME ANYWHERE) も解説してあります。

また終章として、私が「MAGIC」誌に投稿した、この本で探究したタイプのマジックへの考察である「THE JOY OF FAILURE」と題する一文も納めてあります。

これ等のエフェクトは通常のマジックトリックより少し時間を取るなので、ショーの中では 1 つか 2 つやれば十分でしょう。しかしもし時間と状況が許せば一例えばカジュアルな集まり、人の中を歩き回りながら、パーティー、デートの時:「もっとマジカルパーソナリティーテストをやってくれ!」とか「私にも試してみてください!」などと声がかかるかもしれません。そんな時には、私はいくつかのテストを続けて行ってみせます。

この本には STEVE VALENTINE 氏、JOHN BANNON 氏、PETE McCABE 氏等の素晴らしいアイデアが散りばめられています。これらのエフェクトには豊富な台本があり、また DIRTY WORK (秘密の仕事) をするにもいろいろなやり方があります。各章の最初のエフェクトでやり方を詳しく説明して、次に別なハンドリングについて説明するようにしています。その後は、ハンドリングは省いて、各台本に集中しています。

ところで、これらの性格診断は本当に当たるのでしょうか?ある程度までは「YES」です。と言うのも、例えば最初のエフェクト【オープンドア】に出て来る情景は、

カール・ユングや他の心理学者による夢の分析に基づいているからです。しかしもちろん「まやかし」も入っていますが、ここにある人格描写は、FORER EFFEC（フォアラー効果/バーナム効果）によりある程度は有効となります。バーナム効果については第3章の「COLD EQUIVOQUE（コールド・エキボク）」で説明しますが、簡単に言えばこうですー我々はある人格の描写を聞くと、その中に自分を見出そうとする傾向がある、というものです。

もしあなたが既にコールドリーディングのスキルを持っているなら、それをここで使う事は全くかまいません。しかし必ずしもそれは必要ではありませんー実際のところ、ここにあるエフェクトからコールドリーディングの世界に入って行くのも悪いやり方ではないからです。もしコールドリーディングをもっと深く知りたいと思えば、DOUG DYMENT 氏の「THE DECEPTIONARY」というウェブサイトがあります。私のお気に入りにはIAN ROWLAND 氏の「FULL FACTS BOOK OF COLD READING」で、総合的そして合理的なアプローチをしています。私は RICHARD WEBSTER 氏の本からも多くを学びました。

この本にあるルーティンのあるものは気楽に出来て、ルーティンの中でメンタリストに指摘される1つ1つの自分に係ることも客はまず甘受出来るものです。一方他のあるものは、とても内面にまで食い込み、人格を明らかにするものです。実際、この本のエフェクトの1つである「THE DARK HOUSE（ダークハウス）」は「とても強力であり、本当は演じない方が良い」と言われました。私もその意見にはほぼ賛成ですーそのエフェクトは軽々しく演じないでください。あといくつかのエフェクトはとてもセクシュアルで、子供の前では演じるべきではなく、「NSFW」です。（**訳注**：NSFW はインターネットのスラングで、「職場などで見るべきではないもの」という意味です）。

しかし、私はそうした大人のマジックも好きですし、状況さえ選べばそうしたエフェクトは完璧にその場にはまるものです・・・

さあ、そうしたエフェクト達を見に行きましょう！

第1章：

DOUBLE KOKOS (ダブル・ココス)





THE OPEN DOOR 【オーフンドア】

(現象)

メンタリストの言葉に導かれて客が心に色々なことを思い描きますが、それによって客自身に関する真実の一端が明らかにされます—そして同時に素晴らしいカードトリックが成立するのです！

(台本)

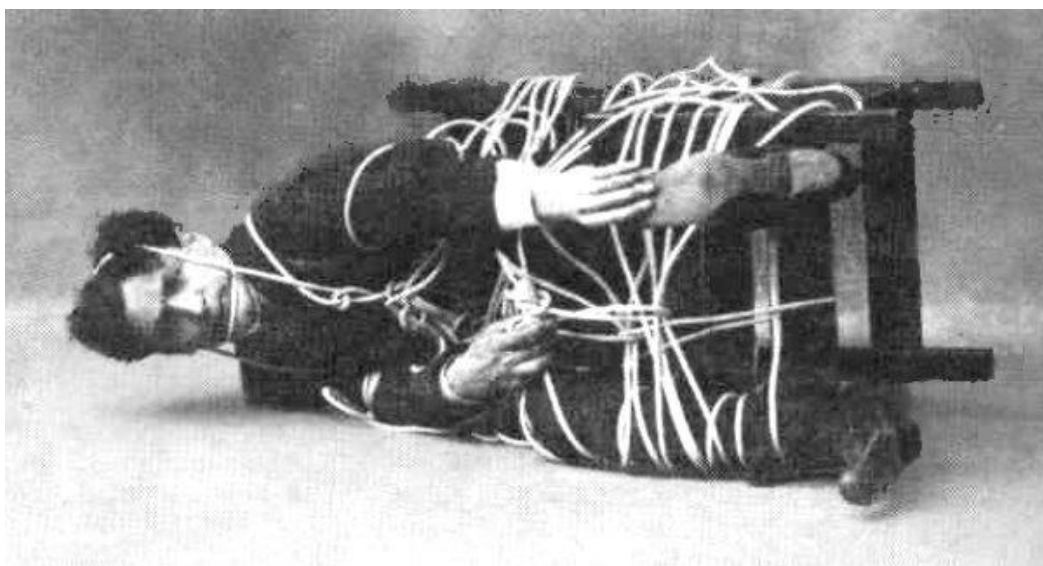
「もしよければ、あなたと空想ゲームというのをやってみたいのですが、如何でしょうか？これはすべてあなたが主役であり、私の言うとおりにやってくれたらとても興味深いものとなるのです。試してみますか？」

「やりましょう」

メンタリストはケースに入ったデッキを取り出して、テーブルに置きます。

「カードは気にしないでください。さてまずあなたに自分が住んでいる近所を散歩しているところを想像して欲しいのです。この「心の中での映像化」のことを我々メンタリストは「ヴィジュアルイゼーション」と呼んでいます。散歩は特にどこへということはありません—とても天気の良い日なのでぶらぶらしているのです。気持ちよく、幸せで、気になるような事ありません。

—以下省略—



ALL TIED UP【オール・タイドアップ】

これはこの本の中で、私の個人的なお気に入りであり、「より幸せになるための一味違った科学的方法」という論文にヒントを得たものです。その一部を紹介します：

「西欧文化においては、『人の思考・考えというものは物と同等に考える事は出来ない』とされます。しかし、言語という存在が、必ずしもそうではないことを示唆しているように思います（*訳注*：思考を言葉で紙に書けば、それは紙の上に文章という形で具体的な形をとり、物質と同様に認識することが可能となります）。

ここに報告されている調査では、思考を（紙に書く等）体現することが、その後の思考そのものに影響を与えるかどうかを調べました。実験1では、実験参加者たちに、自分の身体の好きな所、嫌いな所について書かせ（思考の体現）、自分の考えを書いたその紙を破り取ってゴミ箱に捨てるか、とっておくかという事をやらせます。すると紙を物理的に破り捨てた参加者たちは、メンタル的にもその思考、考えを捨て去り、自分の考えを体現した（書いた）紙を取っておいた参加者たちよりも、その後その考えを使う（そう考える）ことが少なくなるとの結果が出たのです」

その論文はあと2つの実験の結果についても報告しており、その中でも、人の思考を物理的に体現しているものに対して何かすると、彼らの思考そのものにも少なからぬインパクトを与えるという事が強く示唆されています。

以上の調査結果を参考に、私はもう1つの「ダブル・ココ手順」を思いつきました。そこでは人の人生のネガティブな面を体現するカードを最後に破いてしまう（そしてネガティブな思考も捨てる）ようにしたのです。雰囲気としては後述の【ダーク

ハウス】よりも軽い感じであり、以下が私の考えたものです：

(台本)

「あなたが目を覚ましたところを思い描いてください。しかし、それは自分のベッドの中ではなかったのです。あなたはイスに縛り付けられており、頭がガンガンします。・・・・・・・・・・・・・・・・

—以下省略—



THE VISUALIZATION TANGO TECHNIQUE

【ビジュアリゼーション・タンゴ・テクニク】

さて、私は十何年にわたるマジックのブランクの時期がありました。私が再びマジックの世界に戻ってみると、随分事情が変わっていました。例えば、フローティングケーンは姿を消していました。代わりに輪ゴムが登場していました。そしてあるテクニクはより盛んになっていました—EQUIVOQUE（エキボク：マジシャンズチョイス）もその1つです。でも、なぜだろうと考えさせられました。というのも、最初に何度かカードをフォースするのにエキボクが使われたのを見たのですが、それはひどいものだったからです—長ったらしくて退屈で、やり方も全く見え見えでした。その部屋にいた人間の中で、唯一だまされたのは演技者だけだったろうと思いました。それ以来私は一般の人と一緒に時は、長々としたエキボクを使うルーティンの後で、彼らがだまされたかどうかを聞くようにしました。ある人は「はい」で、またある人は「いいえ」です。

私が思うにエキボクと言うのは、メンタリストにとっての「パス」のような技法だろうと思います。うまくいった時はとても不思議ですが、下手に行われるとすぐにばれてしまいます。BERGLAS 氏や MAVEN 氏はそれを使って奇跡を起せることは間違いありませんが、残念ながらあまりにも多くの演技者がそのレベルに近づいていないのです。

私はやり方を隠し、演技のプロセスに興味を持たせるために、エキボクとビジュアリゼーションを組み合わせることを研究してきました。その当時は、GREG ARCE 氏の素晴らしい「SCORCH」のように、同じような方向を目指している人達がいることは知りませんでした。(訳注:「SCORCH」はエキボクを使ったカード当てで、客が選んだカードが封筒やその他不可能な場所から出て来るものです)。しかし、時には先駆者の業績を知らない方が良い場合もありますーもしそれらを知ったら、問題は解決されたとして研究はストップし、私独自の解決法を思いつかなかっただろうと思いますーここに解説するやり方は、少なくともある部分は私のオリジナルと言えるものです。

このテクニックの1つのキーポイントは、エキボクの各段階で客に「ビジュアリゼーション」を行わせることですーそれによりそのプロセスが新鮮で面白いものとなり、やり方を隠してくれます。もう1つのキーポイントは、この「ビジュアリゼーション」が、客の思いに応じて手が動くようにデザインされたものだということです。つまりメンタリストはどちらかのパケットを取るように等、客に指示する必要がないのです(客の動きとメンタリストのリードがしなやかに相互に作用するので、ダンスのタンゴを思い出させますーこのタイトルの所以です)

例えば、客に一方の手にはすべての「赤」のカードを、もう一方の手にはすべての「黒」のカードを持っていると想像させ、・・・・・・・・

ー以下省略ー

それでは「EQUIVOQUE: エキボク」のテクニックの別の使い方を、次に見ることにしましょう。



COLD EQUIVOQUE (コールド・エキボク)

(現象)

メンタリストは1枚のカードと1枚の紙をテーブルに伏せて置きます。いくつかの「ビジュアライゼーション」を行って、客は1枚のカードを選び、メンタリストはその選択についてリーディング的なコメントをします。最後に客が紙に書いてある事を読むと、今メンタリストがしたコメントに完全に一致しています。最後に客が伏せてあるカードを開けると、それが客の思ったカードなのです。

(このエフェクトの背景)

これは私がマジックとリーディングのある要素を融合させた最初のもので、その当時、私はこのアイデアをいろいろといじっていましたが、私の友人 DEN SHEWMAN 氏(「CREATIVE SCREENWRITING MAGAZINE」の編集長であり、作家であり、マジシャン)が、エキボクによるカードフォースとコールド・リーディングを何とか組み合わせることは出来ないかという素敵なアイデアを打診してきました。それはまた私が考えている問題の良い解決にもなるように思いました。

しかしそうするには問題がありました。第1に、私にリーディングをどうやるかの知識がほとんどなかったことです！そこで私は FORER STATEMENTS という、正しさが検証されて来たリーディングにおけるロゼッタストーン(手がかり)に頼る事にしました。あなたがリーディングを行いたいのであれば、それはとても素晴らしい

い出発点だと思います。

1948年に科学者である BERTRAM FORER 氏は、超能力者や占星術師などに良く見られる性格の観察結果をまとめました。また彼は、自分の実験の対象者達に彼らの筆跡見本を求め、それをしばらく「分析」した後に（実際には何もしていません）、各人に、あらかじめ準備しておいた全く同じ性格分析結果の紙を配ったのです。するとテスト参加者はその分析結果が自分の性格をかなり良く分析していると評価したのです（評価の正確性は「5」中、平均で 4.26 でした—**訳注**：つまり、テスト参加者たちは与えられた分析結果に自分を合わせて考えたがるという傾向が確認されたのです）。

なおダレン・ブラウン氏も、彼の特別番組の中で、この FORER の実験（バーナム効果）を再現しています。

私は FORER の観察結果を出来るだけこのリーディングに詰め込みました。コールド・リーディングのスキルのある人には、これは役立つでしょう。

そうしたエキボの取り扱いを探っているうちに、私は【ビジュアライゼーション・タンゴ】のテクニックにたどり着いたのです。このルーティンでは、ルーティンの各局面をリーディング風に仕立ててあります。前述のエフェクトにおけるカードフォースについて、いかにリーディングと結びつけて演じ得るかを判ってもらうために、セリフをフルに書いておきます。

このルーティンについては多くの嬉しい反響をもらっています。例えば、BASCOM JONES 氏がメンタリズムにおける最も偉大な本の 1 冊と評している「QUICK AND EFFECTIVE COLD READING」の著者である RICHARD WEBSTER 氏は、「あなたのコールド・エキボク のルーティンを送ってくれて有難う。すばらしいです！・・・このような良く考えられた、実用的なルーティンを教えてくれて感謝します」と言ってくれました。

RICHARD はじめ、私に返信をくれた皆さんに感謝します。

（台本とやり方）

「ETHOS ANTHROPOS DAIMON という古い諺があります—性格は運命なりと言う事です。あなたの性格があなたの行う選択を決定し、その選択がまたあなたの性格を決めるのです。さてマジシャンは人々にいつもいろいろな選択をするように頼みます：「1枚のカードを取ってください」とか「カードを1枚思ってください」等です。必ずしも重大な選択ではありませんが、あまりにも多くのマジシャン達が

それをあまりにもたびたび、余りにも長い間やって来たので、ある一定のパターンが認識されるようになりました。あたかも客のカードの選択が、彼らについての何かを明らかにしているかのようです。そこで私は1つの実験をやりたいと思います。それは心理学におけるロールシャッハテストのようなものですが、また同時に超能力者やタロット占い師などの知識も借りています。我々はこれから多くのマジシャン達が踏み込んだことのない領域に入ろうとしています。準備はOKです。

私はあなたを知っています（もし知らなければ、少し客と話をしたり、いくつか質問をしたりします。そして筆跡をもらって、しばし分析の時間を取った後にあなたの分析結果を書きます）。私は長い時間をかけてあなたの性格を一生懸命に考えてきました。そして2つの予言を作ったので、私が触れないようにあなたのそばに置いておきましょう。1つの予言はこの紙に書いてあり、もう1つの予言はこのカードです。繰り返しですが、私は最後までこれ等には触りません」

2つの予言をテーブルに置きます・・・・・・・・・・・・・・・・

—以下省略—

1. 赤と黒

—以下省略—

2. ダイヤとハート

—以下省略—

3. 高い、低い

—以下省略—

4. 偶数と奇数

—以下省略—

「インティメイト・ミステリーズ」

Intimate Mysteries

by

Chris Philpott

Exclusive Japanese Edition

This Japanese Translation is authorized by Chris Philpott.

この日本語版は、Chris Philpott より日本語版としての権利を購入して
(有)フェザータッチ MAGIC にて発行するものです。(2018/6/25)

翻訳： 平賀 義達

編集・発行：(有)フェザータッチ MAGIC

THIS LIMITED EDITION PRINTED BY
FEATHER TOUCH MAGIC

日本語版 Copyright @ 2018 (有)フェザータッチ MAGIC

★ 本書は、Chris Philpott の「Intimate Mysteries」(2013年発行)の日本語版です。本人との契約により特別に日本語版の権利を受け発行するものです。

★ この解説書の全てのコンテンツ(情報・資料・画像等)の著作権は、フェザータッチMAGICが所有します。一部、全部を問わず、無断でのコピーはもちろん、いかなる手段での転記、転載(電子メールを含む)販売等の二次使用は一切禁止します。

インティメイト・ミステリーズ©2018 FTM: *Feather Touch Magic Inc.*

インティメイト・ミステリーズ

人の心に触れる演技・深層心理の神秘

Intimate Mysteries

by

Chris Philpott

編集・販売: (有) フェザータッチMAGIC

www.FTMagic.JP

